

まえがき

本書は、「生物多様性」について紹介するものです。生物多様性という言葉に触れる機会が増えてきました。しかしながら、この言葉について聞いたことがある人が増えてきている一方で、その意味するところは曖昧にされたままです。生物多様性とは何かを定義することは困難で、唯一無二の尺度のようなものが存在しません。もっとも直感的にわかりやすいと考えられるのは、生物種の豊富さ（種数）かと思われます。しかしながら、「種」とは何か、ひいては「生物」とは何かを厳密に定義することも困難です。このような状況下で、生物多様性を簡潔かつ明確に定義することはできません。

本書は、根源的に曖昧であるからこそ多様な意味を持つ「生物多様性」について、さまざまな角度から考え、網羅的に紹介するように心がけました。生物多様性についてのすべてが本書で紹介できているわけではありませんが、生物多様性の捉え方、自然界での生物多様性の成り立ち方、人間社会と生物多様性との関わり方など、幅広いトピックに焦点を当てることで、読者の方々が「生物多様性の多様性」について考えるきっかけになればと思い、執筆を続けてきました。

この世界は、偶然と必然が折り重なることで出来上がっていると思っています。生物多様性も、私たち人間社会も、偶然性と必然性が作用する中で、成り立ち維持されています。しかしながら、人間活動が自然界に甚大なる影響を与えている今、私たちヒトは、自然界に存在する偶然性の要素を排除し、ヒトにとって都合の良い必然

性だけを抜き出そうとしています。その結果、生物多様性も著しく脅かされています。本書では、偶然と必然が織りなす生物多様性について、基礎科学的な視点から紹介しつつ、人間社会との関わりという点での応用的な視点も踏まえました。

本書が、読者の方々にとって、自然と向き合い、自然について考える上で少しでも役立てば幸いです。

2017年11月

森 章